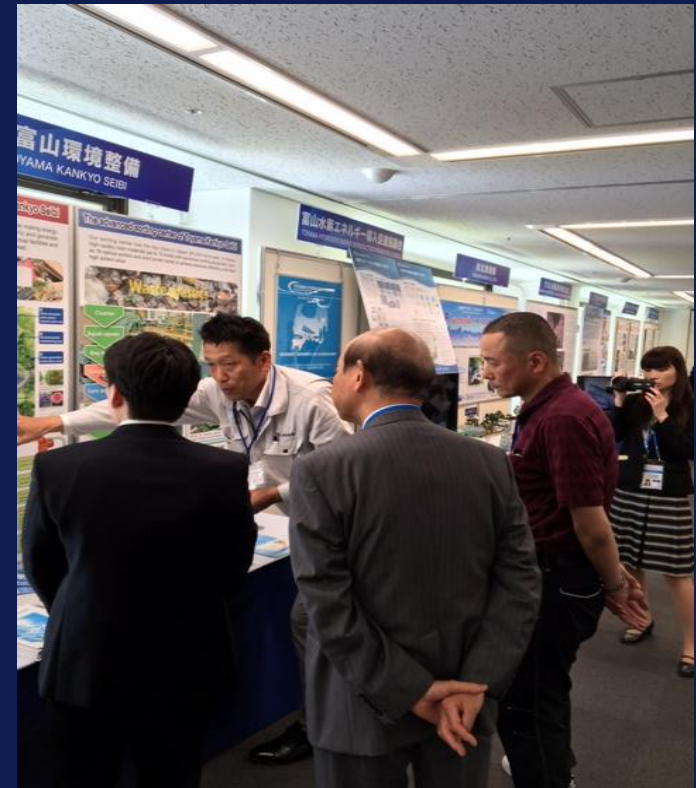


6月22日循環社会部会

＜テーマ：万全な災害廃棄物処理体制の構築
適正処理の更なる推進＞

(株)富山環境整備の現在と今後の事業展開



代表取締役社長 松浦英樹

G7富山環境大臣会合で、石井富山県知事、
鬼木環境大臣政務官に当社の取組みを説明(2016.5.15)

(株)富山環境整備の事業概要



① 廃棄物破碎・選別・再生事業化エリア



⑤ 廃棄物最終処分エリア

⑥ 飲料水製造事業 (別エリア)



③ 発電併用焼却事業・分析事業エリア

② リサイクル製品製造エリア

④ 次世代施設園芸エリア



水、土、肥料、農薬を最小限に抑えることにより高糖度のトマトを栽培しています。



トルコギキョウ、ランタンキュラス、カンパネラを栽培しています。

事業所面積 約 75ha
(東京ドーム 16 個分)

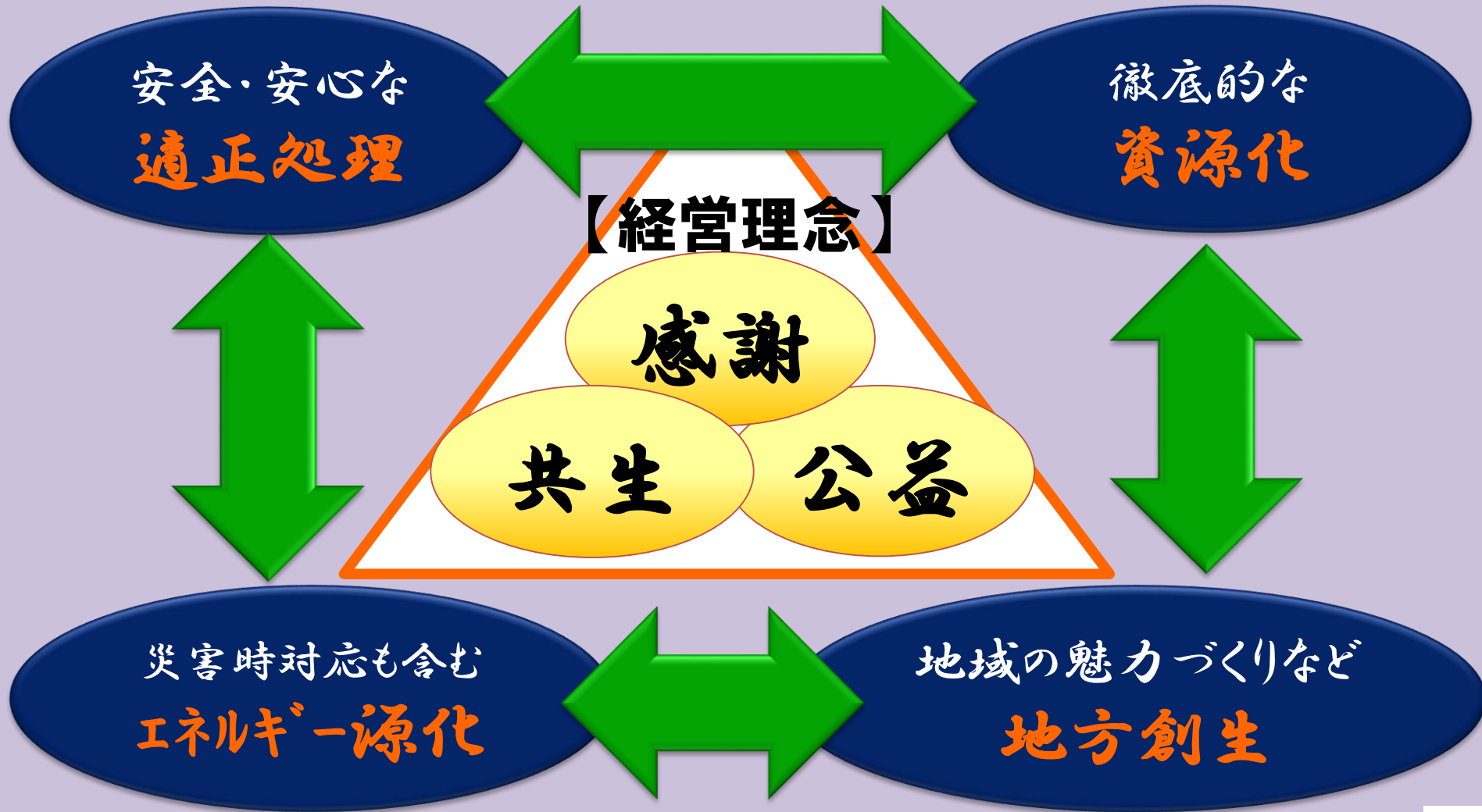


【会社概要】

- 社 名: 株式会社富山環境整備
- 資本金: 2000万円 年商: 113億円(2015)
- 社員数: 351名 創業: 昭和47年(1972)
- 所在地: 富山県富山市婦中町吉谷3-3

会社の経営方針等

【経営方針】



事業の基本的方向性とコンセプト

【課題等】

- ・ 最終処分場の整備・確保がだんだんと難しくなっている。
- ・ これまで最終処分場跡地は広大な土地であるが、その構造特性から生産性の高い土地利用がされておらず、公園等の公共的施設が整備され、毎年、多額の管理費等が必要となる。（最終処分場等のイメージアップも必要）
- ・ 国内外で環境的・資源的制約が発生しているほか、発展途上国の多くは、食料問題や廃棄物処理問題を抱えている。
- ・ 農家の高齢化と減少、TPPを踏まえた国際競争力のある農業経営及び安全で安心な農産物の安定的な生産が必要とされている。

【基本的方向性とコンセプト】

- 方向1： 廃棄物の徹底的な資源化と有効利用、とりわけ廃プラスチック類
⇒最新のソーティング技術を取り入れた高度処理
- 方向2： 最終処分場跡地等を活用した、世界に打って出る次世代型農業の展開
⇒環境にやさしく、かつ安全で高品質・高付加価値の花卉・野菜生産
- 方向3： 廃棄物由来固形燃料発電¹の高度利用と過疎地での災害に備えた自立・分散型エネルギーの確保

実際の作業状況 (受付&チェック)

廃棄物搬入路



廃棄物情報の入力



廃棄物の計量



内容のチェック



実際の作業状況（中間処理）

搬入された廃棄物の選別作業



<①可燃物>
→リサイクル、熱回収

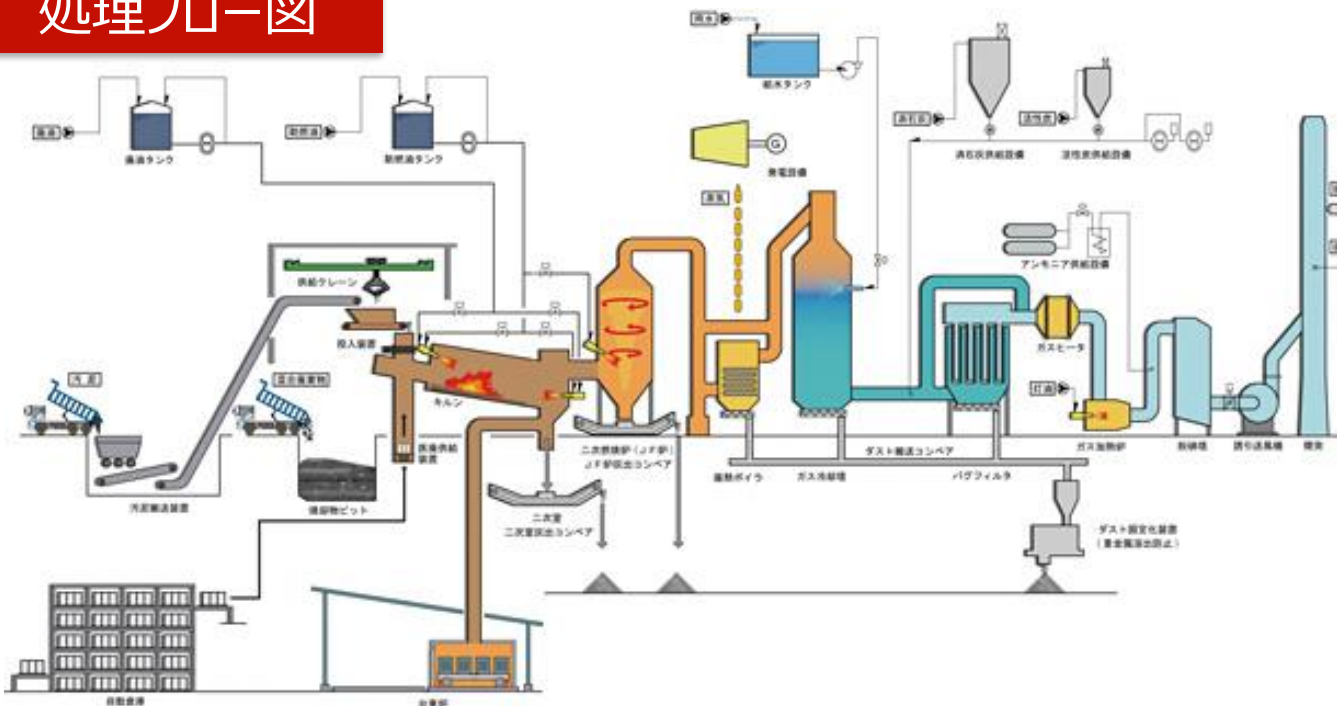


<②不燃物>
→埋立処分



実際の作業フロー（焼却処理）

処理フロー図



【焼却施設の概要】

- ・竣工年月：平成20年12月
- ・施設規模：144t/日（産業廃棄物）
14.4kl/日（廃PCB）
- ・煙突高さ：59m（建物：35m）
- ・運転日数：約310日/年
- ・炉形式：ロータリーキルン式
- ・設備費：約55億円

- ・産業廃棄物処理量：約38,000t/年
（処理率：約90%）
- ・PCB廃棄物処理量：約3,500t/年
- ・焼却残さ量：約4,100t/年
- ・発電量：6,000MW
- ・運転管理コスト：約12億円
- ・売電料等：約5,000万円

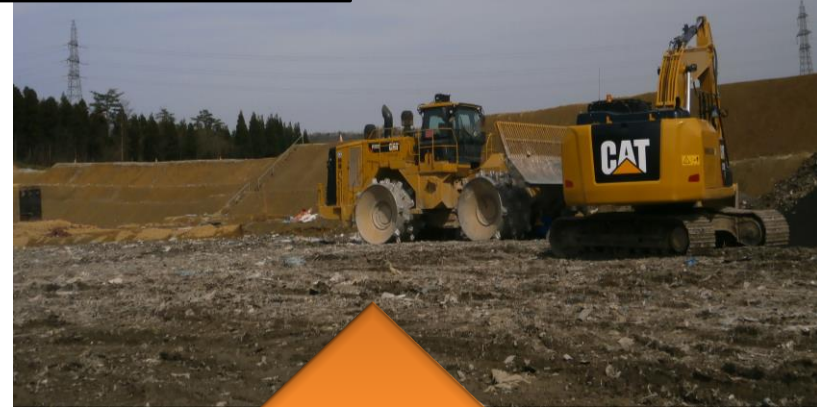
実際の作業状況（埋立処分）

最処分場の外観

【管理型処分場の概要】

- ・設置年月：平成14年11月（H28.8変更）
- ・施設規模：面積：231千m²、容量：8,973千m³

即日覆土（転圧）



内容のチェック

建設系廃棄物は、約70%
それ以外は、約30%

埋立作業

